

TOKAS Project Vol. 5

ひもとく

Himotoku: The Opening Blossoms of an Unraveling World

2022年8月27日(土)～10月10日(月・祝)

トーキョーアーツアンドスペース本郷

— TOKASとTAVとの交流15周年、日台アーティストによる展覧会

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)では、2001年の開館以来、海外のアーティスト、キュレーター、アートセンターや文化機関などと協働して展覧会や関連プログラムを実施してきました。2018年より開始した TOKAS Project は、国際的な交流を促進し、多文化的な視点を通じて、アートや社会など、さまざまなテーマについて思考するプロジェクトです。

TOKASと台北国際芸術村(TAV)は、2007年より、双方向にクリエイターを招聘・派遣するレジデンス事業を開始し、今年15周年を迎えました。今年度までに計29名のアーティストがプログラムに参加し、日本と台湾で制作活動を行ってきました。

本展では、TOKASに滞在した3名と、TAVに滞在中に出会い、ともに制作を行った2名のアーティストの計5名による作品を紹介します。

■ 展覧会概要 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、変更となる場合があります。

展覧会名: TOKAS Project Vol. 5 「ひもとく」

英語タイトル: TOKAS Project Vol. 5 “Himotoku: The Opening Blossoms of an Unraveling World”

参加アーティスト: チェン・イーシュアン(陳以軒)、チェン・ユウエン(セラ)(陳郁文)、橋本 仁、
ルー・チーユン(盧之筠)、シュウ・ウハン(周武翰)

会期: 2022年8月27日(土)～10月10日(月・祝)

会場: トーキョーアーツアンドスペース本郷(東京都文京区本郷2-4-16)

開館時間: 11:00 - 19:00(最終入場は30分前まで)

休館日: 月曜日(9/19、10/10は開館)、9/20

入場料: 無料

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

協力: 台北国際芸術村

後援: 台北駐日経済文化代表処

ウェブサイト: <https://www.tokyoartsandspace.jp/>

<お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

「ひもとく」とは「書物を開き、読む」を意味し、「書物の知識に触れ、歴史を振り返り、真実を明らかにする」ことへとつながります。また同時に「つぼみが開き、ほころびる」という意味もあります。本展で紹介する日本と台湾で制作活動を行っている5名のアーティストは、TOKASとTAVの交流事業であるレジデンス・プログラムに参加し、東京や台北に滞在することで、その土地の歴史を振り返り、人々に会うことによって、街の新たな側面を見つけ出しました。それらの出会いを作品制作につなげることで、固く閉じていたつぼみが開き始めるように、新たな創造へと向かい、そして世界を解きほぐすことを試みました。

TAVとの交流が始まった2007年以降、私たちの生活や経済に大きな混乱や変化をもたらした大震災や感染症の大流行などさまざまな出来事があり、また自ずとそれぞれの作品に時代状況が反映されています。

ルー・チーユンは、日本と台湾で育ち、東日本大震災の影響がまだ残る2012年に東京でのレジデンス滞在经过、現在も東京を拠点として活動しています。今回の展示では2014年に発表をした、セメントやスポンジ、造花を使った作品を発展させます。観客が展示空間に入り、硬そうな見た目の作品を踏むことによって沈む時の感触や、割れていく表面などにより、知覚を変容させることでしょう。

2019年に台北で滞在制作を行った橋本仁が、日本統治時代の台湾に住み暮らした祖先の軌跡を辿っていた時に、自身の祖母が暮らした「高橋邸」という建築物をきっかけに、同時代の建築と歴史に関する作品を発表していたシュウ・ウハンと出会い、親交を深めてきました。今回はひとつのフロアで二人が展示し、それぞれの視点からひとつの場所を臨むことで、多層的な視点で歴史を見ることにアプローチします。またそこには彼らの交流の軌跡が残されています。

チェン・イーシュアンは、新型コロナウイルスの感染が広がる前に東京に滑り込み、街を探索しました。徐々にパンデミックに陥る世界の中で撮影された東京の街には、人の姿がまばらで、そこに置かれたモノたちは、ウイルスによって「自己隔離」されている状況と重なりあっていました。本展に際し東京にまた戻ってくることで、中断を余儀なくされたリサーチを再開します。

チェン・ユウエン(セラ)は、コロナ禍で海外からのレジデントの受け入れが困難だったTOKASレジデンス・プログラムが再開し始めた2022年4月から東京に滞在しています。日本庭園のリサーチをすすめながら構想した、人間と自然を主題としたビデオ・インスタレーションを発表予定です。

このように15周年を迎えたTOKASとTAVの協働が、今後もたくさんの花を咲かせるきっかけになっていくことを願っています。

■ 関連イベント

アーティスト・トーク

日時:2022年8月28日(日)15:00 - 16:30

出演(予定):チェン・イーシュアン、チェン・ユウエン(セラ)、橋本 仁、ルー・チーユン、シュウ・ウハン
最新情報はTOKASウェブサイトで発表します。

参加クリエイター／広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。広報担当までお問い合わせください。

チェン・イーシュアン | 陳 以軒 | CHEN I-Hsuen

2020 年度二国間交流事業プログラム<台北>参加

都市環境にあるモノと公的な力の間にある関係性に着目し、写真、映像、パフォーマンス作品を制作しているチェン。2020 年の 1 月から 3 月までの東京滞在では、「ホームレス」が他の場所へ移動することや、東京オリンピックによって新しい住居に移ることになった人々をリサーチしました。本展では、コロナ禍になりゆく街の中で写し取ったモノが「自己隔離」の状態にあると捉えた《Soft Quarantine》のシリーズを発表します。

【プロフィール】1982 年台北生まれ。台北を拠点に活動。2012 年プラット・インスティテュート写真専攻修了。主な展覧会に「Commissioned」(鳳甲美術館、台北、2019)、「台北ビエンナーレ」(台北市立美術館、2016)など。



1. 《Soft Quarantine》
2020
写真

チェン・ユウウェン(セラ) | 陳 郁文 | Sera Yu Wen CHEN

2022 年度二国間交流事業プログラム<台北>参加

チェンは人が作り出した自然空間に興味を持ち、TOKAS レジデンス滞在中に、日本庭園について作庭の方法やその背景にある思想を探るため、さまざまな庭園に赴き、リサーチやインタビューを行っています。そのようにして日本庭園における人と自然、また都市との関わり合いから着想を得た作品を発表します。

【プロフィール】1991 年花蓮生まれ。台北を拠点に活動。2019 年シカゴ美術館附属美術大学(美術)修了。主な展覧会に「Scenery in Mock-up」(関渡美術館、台北、2021)、「Everyday Fictionality: Beholding Shadows of Illusion」(台北市立美術館、2019)、「Terms & Conditions」(SoMad Studio、ニューヨーク、2019)など。



2. 《The Naturalness II》
2018

3 チャンネル・ビデオ・インスタレーション、サウンド

ルー・チーユン | 盧 之筠 | LU Chih-Yun

2012 年度二国間交流事業プログラム<台北>参加

ルーは 2012 年のレジデンス滞在をきっかけに東京に移り住み、現在も東京を拠点に活動しています。近年は、建築で使われ、堅牢なイメージがあるセメントを用いた作品制作を行い、本展では床面に敷いたスポンジや天井から吊るされた造花などをセメントと組み合わせることにより、観る者の知覚を変化させる作品を発表予定です。

【プロフィール】1984 年日本生まれ。東京都を拠点に活動。2018 年東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了。主な展覧会に「ルー・チーユン個展」(ガレリア・グラフィカ bis、東京、2019)、「Crush Syndrome」(Crane Gallery、台北、2015)など。

橋本 仁 | HASHIMOTO Jin

2019 年度二国間交流事業プログラム<台北>参加

橋本は、木材や鉄などの素材を使い「時間と蓄積」「存在と記憶」をテーマに作品制作を行っています。本展では、台湾で生まれ第二次世界大戦後に日本へ引き揚げた日本人(湾生)である自身の祖母が、台北時代に暮らした「高橋邸」に蓄積された記憶を辿りながら、湾生の人々の想いを抽象的に表現した作品で構成します。

【プロフィール】1984 年埼玉県生まれ。埼玉県を拠点に活動。東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻修了。主な展覧会に「Memory Code」(郭木生文教基金會、台北、2020)、「トーキョーアーツアンドスペースレジデンス 2020 成果発表展『デジタルチェーン』」(TOKAS 本郷)など。

シュウ・ウハン | 周 武翰 | CHOU Wuhan

2019 年、台湾で橋本仁とコラボレーション

シュウは建築デザインやドローイングや物語を用いてインスタレーションやパフォーマンスを行い、建築や都市における物語の再解釈を行っています。本展では、台湾の日本統治時代に建てられた「高橋邸」や、同時代の歴史を調べ、その時代の記憶を再構築することを試みます。また台湾文学や建築のリサーチをとおしてアーティスト・ブックを制作する「犬吉工作室」のメンバーのひとり。

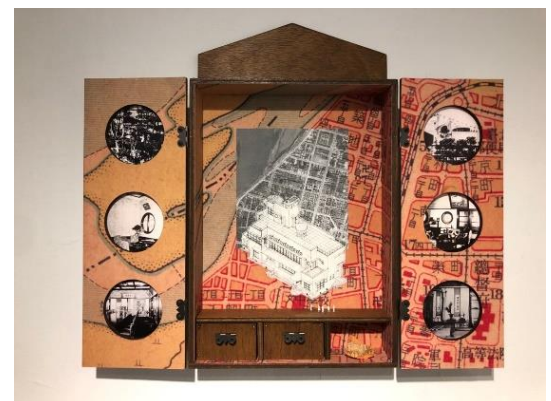
【プロフィール】1987 年生まれ。台北を拠点に活動。2014 年ロンドン・メトロポリタン大学建築学科修了。主な展覧会に「Im-Memory」(基隆美術館、台湾、2022)、「場所感」(水谷芸術、台湾、2021)、「Those Vivid Memories in the Vanished Villa」(台北国際芸術村、2020)など。



3. 《Stage 01》
2014
セメント、スポンジ



4. 《Memory Code》
2019
木彫、土



5. 《The Vivid Memories in the Vanished Villa》
2021
レンガ、コラージュした地図、木箱

■ 関連展覧会

TAVとTOKASの交流15周年を記念して、台北で交流記念展「信使」を開催しています。
派遣アーティストの荒川創也(2008年)、阿部乳坊(2009年)、花崎草(2015年)、中島伽耶子(2017年)と、招聘アーティストのウー・ダークン(2008年)、チャン・ヨンタ(2011年)が参加しています。

展覧会名:「信使」-TAV & TOKAS 15周年交流記念展

英語タイトル: Messengers: TAV & TOKAS 15th Anniversary Commemorative Exhibition

参加アーティスト: 荒川創也 ÷ 阿部乳坊、チャン・ヨンタ(張永達)、花崎草、中島伽耶子 + リ・テマオ(李德茂)

展覧会コンサルタント: ウー・ダークン(吳達坤)

会期: 2022年6月25日(土) ~ 7月24日(日)

会場: 台北国際芸術村、百里廳

開館時間: 11:00 - 18:00

休館日: 月曜日

主催: 台北国際芸術村

ウェブサイト: <https://www.artistvillage.org/event-detail.php?p=4560>



荒川創也 ÷ 阿部乳坊「信使」展示風景
2022

Courtesy of Taipei Artist Village

Photographer: Sasha Chan



チャン・ヨンタ「信使」展示風景
2022

Courtesy of Taipei Artist Village

Photographer: Sasha Chan

「TOKAS Project Vol. 5『ひもとく』」
広報用画像申込書

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

Fax 番号: **03-5245-1154**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4 5

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVDを一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 市川、武智

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp